



# 事業報告書 2017

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

## 南近畿から広がる 新しい未来への扉

■ 連携機関



連携機関長からの挨拶	2
I 事業概要	3
II ダイバーシティ研究環境整備	5
連携機関長会議と連携機関連絡会議の発足・開催	
「ダイバーシティ保育サポーター」養成セミナー	
研究支援員制度	
保育サポート事業	
女性研究者ネットワークシステム	
相談窓口	
ホームページの立ち上げ・事業紹介パンフレットの発行	
研究者の職場環境整備に向けた実態調査	
III 女性研究者の研究力向上・リーダー育成	8
連携型共同研究助成	
産学官連携ウィメンズユニットによる共同研究プロジェクト	
産学官連携イノベーションフェア	
キャリア形成・研究力向上セミナー	
研究施設の共同利用	
企業インターンシップ	
女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業	
IV 女性研究者の上位職登用促進	14
ダイバーシティ研究環境実現 キックオフシンポジウム	
女性管理職育成のためのキャリア研修／管理職研修	
V 各連携機関のその他の取り組み	17
大阪市立大学	
大阪教育大学	
和歌山大学	
積水ハウス株式会社	
VI 主な取り組み一覧	21



大阪市立大学 学長 荒川 哲男

平成 29 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社と本学が連携して、女性研究者支援、ダイバーシティの研究環境の実現に向けて取り組むこととなりました。

本学は、平成 24 年 11 月に女性研究者支援室を開設し、平成 25 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択されたのを契機に、全学を挙げた男女共同参画の意識啓発、ワーク・ライフ・バランス支援の取り組みを本格化させました。本事業では、女性研究者の研究力向上・リーダー育成、上位職登用促進のための新たな取り組み・制度を立案し、協力機関を含む南近畿圏の各機関に波及させ、「女性活躍推進」の輪を上げたいと考えております。

本事業の達成のために、4 連携機関の活発な交流と積極的な事業への参画・遂行が必要となります。関係機関の皆様には、ご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



大阪教育大学 学長 栗林 澄夫

本学では、2010 年 1 月の男女共同参画推進担当学長補佐の配置から始まり、男女共同参画推進行動計画（現在第 2 期 2016 年 4 月～2020 年 3 月）を策定の上、ジェンダー平等の視点に基づく教育・研究・実践活動に対する助成等の諸施策を実施することにより全学的な意識改革を進めるとともに、ハード面においては、授乳室の設置等の環境整備を行って参りました。

本事業においては、研究支援員制度の拡充や保育サポーターの養成により、女性研究者のワークライフバランスの向上をめざします。さらに、連携事業の特色である共同研究や産官学連携事業を通じて女性研究者間の新たな繋がり形成を促進し、研究力・マネジメント力の強化を図っていただけるものと期待しております。



和歌山大学 学長 瀧 寛和

研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出を期待して、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や研究力向上のための取り組み、積極採用などを目指し、大学や研究機関が企業等と連携することが、本事業の目的となっています。

和歌山大学では、男女共同参画推進室を設置し、教職員の意識・要望を受けて、学内「子ども休憩室」の試行や「男女共同参画からみた多様な教員支援講座」の開催など、意識向上を図って来ましたが、また、男女共同参画担当の学長補佐を配置しています。この事業を通じて、参画大学（大阪市立大学、大阪教育大学、和歌山大学）と企業（積水ハウス株式会社他）で活躍する女性研究者が増加し、研究力がさらに促進されることを期待しています。



積水ハウス株式会社 執行役員 総合住宅研究所長 石井 正義

積水ハウス株式会社では、2006 年から女性活躍推進をスタートさせ、多様な視点で住文化に関わる商品、サービスを生み出してきました。その間、住宅を取り巻く環境も大きく変化し、請負中心のビジネスからリフォームや街づくり、国際事業へとビジネスが拡大しています。第 4 次中期経営計画（2017 年～2019 年）では「BEYOND 2020 に向けた“住”関連ビジネスの基盤づくり」を打ち出し、社会性向上の経営基盤として「ダイバーシティ推進」を強化しています。中でも、女性研究者の育成・採用はイノベーションの重要なテーマと位置付けています。本取り組みで、「産官学連携ウィメンズユニット」による共同研究や「インターンシップ」など、各機関との産官学連携による相乗効果でこれからの住文化に関する創造的な提案を行い、大阪の発展にも貢献していきたいと思っております。

# I 事業概要

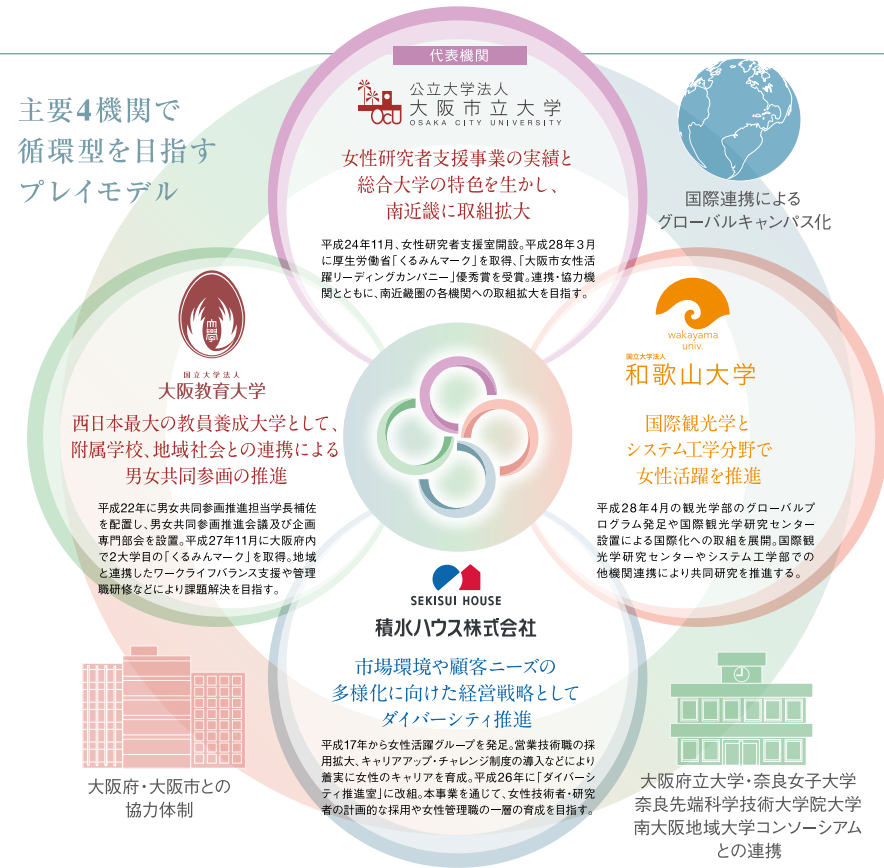
文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」は、研究環境のダイバーシティを高め優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取り組み、女性研究者の積極採用や上位職への積極登用の取り組みを支援するものです。「牽引型」は、大学や研究機関が企業等と連携し、地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する取り組み支援を目的としています。事業期間は、平成 29～34 年度の 6 年間です。

代表機関の大阪市立大学は、都市型総合大学としての総合力と特色（生活科学研究科の存在など）を生かし、産学官連携による女性研究者のキャリア形成と人材交流を促進するとともに、国際的有力大学との連携を通じてグローバルキャンパス化を図り、女性研究者の活躍促進、国際的リーダー育成を図る「南近畿圏共同研究プラットフォーム」構築を目指します。

また、共同実施機関である積水ハウス株式会社は、市民に開放されたオープンイノベーション研究拠点も活用して、産学官連携による「新しい住文化」に関する創造的な提案を行います。

さらに、大阪教育大学や和歌山大学との事業の共同実施を通じて、今後、本事業は南近畿から近畿の企業や研究機関へと連携を拡大していく予定です。

## 【連携体制】



## 【連携機関】

- 大阪市立大学 女性研究者支援室 : <http://www.wlb.osaka-cu.ac.jp/>
- 大阪教育大学 男女共同参画推進会議 : <https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/jinji/diversity/index.html>
- 和歌山大学 男女共同参画室 : <http://www.wakayama-u.ac.jp/equal/>
- 積水ハウス株式会社 ダイバーシティ推進部 : <http://www.sekisuihouse.co.jp/company/diversity/>

## 【3つの取り組み】

### 1. ダイバーシティ研究環境整備

- 研究支援員制度
- 「ダイバーシティ保育サポーター」養成セミナーの実施
- 女性研究者ネットワークシステム運用
- 保育サポート事業（保育利用料補助事業）

### 2. 女性研究者の研究力向上・リーダー育成

- 「産学官連携ウイメンズユニット」による共同研究プロジェクト
- 連携型共同研究助成事業
- キャリア形成・研究力向上セミナーの実施
- 国際アドバイザーの招へい・国際シンポジウムの開催

### 3. 女性研究者の上位職登用促進

- 女性管理職育成のためのキャリア研修・管理職研修の実施
- プロモーションメンター制度の実施
- 管理職の人事交流の実施



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

専用ホームページ：<https://diversity-oows.jp/>

## 【協定書の締結】

【平成 30 年 2 月 20 日（火）】

科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の共同実施に関する協定書の協定調印式が行われました。大阪市立大学、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社は、連携してダイバーシティ研究環境整備、女性研究者の研究力向上・リーダー育成、上位職登用促進を図るため、協定書に署名しました。今後、いっそう相互交流や産学官連携を強化し、南近畿圏に取り組みを波及させます。





# II ダイバーシティ研究環境整備



【連携機関長会議と連携機関連絡会議の発足・開催】

本事業を連携機関が協働して実施するために、「連携機関長会議」及び「連携機関連絡会議」を発足しました。「連携機関長会議」では、連携機関の機関長が事業の進捗状況を共有し、数値目標達成や事業の課題について協議しました。「連携機関連絡会議」では、本事業の実施責任者等が具体的な事業計画の立案や進捗管理を行いました。代表機関の大阪市立大学には、本事業を効果的に実施するために全体の事業計画・プロジェクトを統括し管理運営する「プログラムディレクター」1名と共同実施機関との連携事業の管理運営を行う「プログラムマネージャー」2名を配置しました。

## 【「ダイバーシティ保育サポーター」養成セミナー】

大阪教育大学において、大学のキャンパス等、機関内で一時保育（学童保育等）を行う場合の支援者「保育サポーター」を養成するため、学生や地域住民等を対象にセミナーを実施しました。

### □ 第1回 講演会「性的違和を乗り越えて～側にいる性的マイノリティ～」

【平成30年2月6日（火）】 会場：大阪教育大学 参加：32名

講師：清水展人（一般社団法人日本LGBT協会 代表理事）

当事者に一人で悩ませない社会、カミングアウトや相談のしやすい環境づくりのため、まずはその存在と多様性を知ることが大切との認識を共有できました。質疑応答では様々な質問があり、講演終了後も個別で話を聞きに来る学生がいるなど、今回のテーマについて理解を深める良いきっかけになりました。



### □ 第2回 保育サポーター養成研修

【平成30年2月20日（火）・21日（水）】 会場：社会福祉法人南河学園 附属国分保育園 参加：20名

保育の基本的な知識を学び、実践的な学習を行う研修を実施いたしました。研修には事前に保育サポーターの登録をした大阪教育大学の学生が参加しました。子どもに接するにあたっての注意点等の講義を受けた後、0歳児から5歳児の各保育室に分かれ、給食の時間も含めて保育士等スタッフより実地指導を受けました。実際にサポーターとして活動する場合の対応等について実体験できる良い機会となりました。

### □ 第3回 講演会「子供の貧困～子供のSOSにどう応えるか？～」

【平成30年2月28日（水）】 会場：大阪教育大学 参加：30名

講師：徳丸ゆき子（NPO法人CPAO理事長）

徳丸氏より、活動の背景にある深刻な貧困の状況について、現場での切実で具体的なお話をいただきました。参加者からは、「子育ての社会化」という考え方に共鳴し、自分もできることから支援をしたいとの声が多数寄せられました。



## 【研究支援員制度】

研究支援員制度は、出産・育児・介護を抱える女性研究者の研究支援のために、研究支援員（学生・院生・卒業生他）を配置する制度です。研究支援員は、研究者の監督・指示のもと、支援業務を行います。研究支援員の登録対象者は、大阪市立大学、大阪府立大学、大阪教育大学、羽衣国際大学、奈良先端科学技術大学院大学に所属する学部生、大学院生、卒業生、その他の登録希望者です。登録後、大阪市立大学が研究支援員登録者の希望条件に応じたマッチングを行います。



【研究支援員制度の利用者数】（平成29年度）

	研究支援員利用者	研究支援員
大阪市立大学	12名	10名
大阪教育大学	5名	7名
和歌山大学	5名	6名

## 【保育サポート事業】

大阪市立大学では、出産・育児環境整備の一環として、夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育を必要とする研究者に対し、利用料金の一部を補助し、研究活動と家庭生活の両立支援を行っています。

利用者：7名 件数：41件（平成29年度）



## 【女性研究者ネットワークシステム】

平成25年度より、大阪市立大学では、女性研究者ネットワークシステムを開発・運営し、大阪府立大学、大阪教育大学、羽衣国際大学、奈良先端科学技術大学院大学と共同利用しています。本システムは、研究支援員人材データベースとソーシャル・ネットワーキング・サービスの二つの機能を持ち、利用者同士の交流の促進とコミュニティの構築を目指しています。自宅・スマートフォン・タブレットからもログイン可能となっています。

## 【相談窓口】

大阪市立大学では、女性教員・研究員・大学院生のライフイベント、人間関係やキャリア形成、心身の不調や変化等様々な悩みに応じて学内外の専門機関を紹介しています。今後一層、自治体、介護サービス機関、NPO法人等と連携していくことを検討しています。

相談窓口での相談件数：11件（平成29年度）

# III 女性研究者の研究力向上・リーダー育成

## 【ホームページの立ち上げ・事業紹介パンフレットの発行】

本事業のホームページを開設し、事業の周知・広報を推進しました。本ホームページでは、連携型共同研究の研究内容や女性研究者のロールモデルなどを紹介しています。連携型共同研究については、大阪市立大学女性研究者支援室が仲介した女性研究者マッチングの成果、共同研究に至った経緯についても紹介しています。

また、事業の周知・広報のために事業紹介パンフレットやニュースレターを発行しました。



【ホームページ】



【事業紹介パンフレット、ニュースレター】

## 【研究者の職場環境整備に向けた実態調査】

大阪市立大学の研究者を対象としたアンケート調査「研究者の職場環境整備に向けた実態調査」を実施しました。この調査は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるために、学内の職場環境に関するニーズの把握を行うことを目的としています。調査結果からは、研究のための十分な時間の確保や設備の整備、人員不足の解消、事務作業の効率化など、基本的な部分の支援が必要とされていることがわかりました。調査結果は報告書としてまとめて連携機関と共有し、職場環境整備を行う上での参考資料として活用しています。



【平成29年度 大阪市立大学「研究者の職場環境整備に向けた実態調査」報告書】

## 【連携型共同研究助成】

女性研究者の研究力の向上や南近畿の研究ネットワークの拡大を図るため、連携機関に所属する女性研究者を研究代表者（PI）とした、2連携機関以上の共同研究者による共同研究に対し研究費の助成を行う事業です。

連携機関が共同で作成した実施要領に基づき、連携機関連絡会議で審査を行い、今年度は15件（1件当たり上限100万円）の研究課題を採択しました。

## 平成29年度 連携型共同研究助成 採択一覧

### 【大阪市立大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
菅原 真弓 文学研究科 教授	明治・大正、昭和初期の波止場文化と宣伝チラシの研究	小池志保子 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 木川 剛志 和歌山大学 観光学部 准教授 村田 隆志 大阪国際大学 国際教養学部 准教授
西垣 順子 大学教育研究センター 准教授	大学生における民主主義意識と教育権意識の発達に関する教育実践・調査研究	白井 利明 大阪教育大学 教育学部 教授
岩崎 昌子 理学研究科 准教授	素核物理学実験のための基盤実験技術開発および教育教材開発	越桐 國雄 大阪教育大学 教育学部 教授 住浜 水季 岐阜大学 教育学部 准教授 谷口 七重 大阪大学 核物理研究センター 特任准教授 高エネルギー加速器研究機構 助教
横山 久代 都市健康・スポーツ研究センター 准教授	咀嚼力が若年女性の骨密度に及ぼす影響に関する横断的研究	福村 智恵 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 平井 美幸 大阪教育大学 教育学部 講師
鍋島美奈子 工学研究科 准教授	高床式砂栽培農業施設を活用した都市農業が社会、経済、環境に与える影響の分析	佐久間康富 和歌山大学 システム工学部 准教授 大橋 良之 東レ建設 トレファーム事業推進室 専門部長
上村 了美 理学研究科 研究員	ストレス条件下における遺伝子発現機構に関する基礎研究～非モデル生物からの挑戦	古賀 庸憲 和歌山大学 教育学部 教授
植松千代美 理学研究科 准教授	形態形質と分子マーカーを利用したツバキ属植物の多様性の評価と系統関係の解明	岡崎 純子 大阪教育大学 教育学部 准教授
沼田 里衣 都市研究プラザ テニョアトラック 特任准教授	即興演奏を用いた障害者の社会参加に関する研究	上野 智子 和歌山大学 教育学部 准教授 菅 道子 和歌山大学 教育学部 教授 山崎由可里 和歌山大学 教育学部 教授
小島 明子 生活科学研究科 准教授	食品成分による生活習慣病の予防効果とその作用メカニズムと調理特性による変化	井奥 加奈 大阪教育大学 教育学部 教授 山本 奈美 和歌山大学 教育学部 准教授
吉田 朋子 複合先端研究機構 教授 人工光合成研究センター 副所長	センサー膜材料への分子吸着状態に関する研究	矢嶋 摂子 和歌山大学 システム工学部 教授
山口 悦子 医学研究科 准教授	メディア・アートと医療の教育—メディア・コンテンツを活用した効果的な学生・職員・患者の教育に関する実践的研究（1）—	丁子かおる 和歌山大学 教育学部 准教授 掛屋 弘 大阪市立大学 医学研究科 教授 金子 幸弘 大阪市立大学 医学研究科 教授

### 【大阪教育大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
平田久美子 教育学部 教授	エクオールによる閉経後女性の脱毛抑制効果に関する研究	森村 美奈 大阪市立大学 医学研究科 准教授

### 【和歌山大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
吉田 道代 観光学部 教授	日本における同性愛者のパートナーシップ・家族観	新ヶ江章友 大阪市立大学 創造都市研究科 准教授
秋元 郁子 システム工学部 准教授	高周波 ESR 装置を活用した光キャリアダイナミクスの研究	松岡 秀人 大阪市立大学 理学研究科 特任准教授

### 【積水ハウス株式会社】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
河崎由美子 総合住宅研究所 課長	多世帯居住に関する研究開発	王 飛雪 大阪市立大学 生活科学研究科 特任助教 小伊藤亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授



## 【産学官連携ウィメンズユニットによる共同研究プロジェクト】

大阪市立大学から積水ハウス株式会社へ若手女性研究者を共同研究者として長期派遣する取り組みについて、検討を行いました。企業に派遣する若手女性研究者を教員（特任助教）として新たに1名採用し、企業の女性研究者等との共同研究プロジェクトに従事することによって研究力向上を図り、上位職登用につながる人材育成を行いました。プロジェクトは、積水ハウス総合住宅研究所の女性研究員を研究代表者とし、大阪市立大学の女性指導教員と派遣教員で「産学官連携ウィメンズユニット」を構成しました。共同研究テーマとして、「多世帯居住に関する研究」を設定し、これからの「カゾク」の在り方についての研究を開始しました。



## 【産学官連携イノベーションフェア】

### ■イノベーション・ストリーム KANSAI 2018

【平成30年2月26日（月）・27日（火）】 会場：グランフロント大阪 参加：180名

イノベーションストリーム KANSAI2018（うめきた2期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会主催）では2日間にわたり、ポスター展示および報告を行いました。ポスター展示や報告では今回の補助事業の取り組みや、女性研究者を代表とする「連携型共同研究」の成果を発表しました。イノベーションストリームのなかで女性研究者を中心とした展示は大阪市立大学のみで、多数の来場者の注目を集めました。「骨密度測定体験会」などの体験コーナーも好評でした。



### ■産学官連携ウィメンズイノベーションフェア「イノベーション 創造の新しい形～女性研究者が切り拓く未来～」

【平成30年3月14日（水）】 会場：大阪産業創造館3F マーケットプラザ 参加：63名

基調講演として、宮浦千里先生（東京農工大学 副学長、女性未来育成機構長）に「理系女性研究者のネットワーク拡大～東京農工大学での取り組み～」をテーマにご講演いただきました。パネル展示・交流では、連携機関の女性研究者22名、企業・NPO法人9社が、最新の研究テーマおよび成果を発表しました。研究者と企業が交流し合うことで広がる新たな可能性をお互い発見できた貴重な機会となりました。また、連携機関の女性研究者のシーズ集の作成も行いました。



## 【キャリア形成・研究力向上セミナー】

女性研究者が国際的に活躍していくために必要な英語力とリーダーシップに焦点を当てたセミナーを開催しました。

### ■国際リーダー育成のための英語スキルアップ・プログラム

#### □ 第1回「女性のキャリア形成：日米舞台での1ケース－英語で未来を切り拓く－」

【平成29年10月13日（金）】 会場：大阪市立大学 参加：33名

講師：中村 艶子（同志社大学グローバル・コミュニケーション学部准教授）

日米における育児・保育所制度の実態について、英語での講演が行われました。プロの通訳者としての経験もある中村先生の話は、「日米のワーク・ライフ・バランス問題」だけでなく、自身のキャリア形成から英語学習、通訳まで多岐にわたりました。第2部では通訳者が実際に行うメモの取り方等、プロの技を体験できる通訳サンプルレッスンが行われました。英語での講演、通訳レッスン等盛りだくさんの内容でしたが、先生のひたすら前向きなお話と笑顔に皆が引き込まれ、あっという間の2時間半でした。



#### □ 第2回 第1部 講演「違いのわかる英語一部始終」

#### 第2部 ワークショップ「英語発信力①アサーティブ・トレーニング」「英語発信力②脱『起承転結』」

【平成29年11月9日（木）】 会場：大阪市立大学 参加：32名

講師：竹鼻 圭子（和歌山大学大学院観光学研究科教授、学長補佐（男女共同参画担当））

第1部は、英語の歴史的背景、音声、表記、文の構造という多岐にわたる講演を、そして第2部は、コミュニケーションを取る上でアサーティブな姿勢が重要であること、英語で説得力のある文章を書く際には、英語の文章特有の基本形を使わなければならないことをそれぞれテーマにしたワークショップが行われました。英語の概論からスピーキング・ライティングまで学ぶという濃密なプログラムでしたが、竹鼻先生の熱意と、英語を学びたいという参加者の想いがひとつになって、大変実りのある会となりました。



#### □ 第3回「英語論文ライティング・ワークショップ」

【平成29年12月14日（木）】 会場：大阪市立大学 参加：29名

講師：ジョン・ノーラン（ILC国際語学センター大阪校）

第1部の講義・演習では、英語で論文を書く際に適語の選択が重要なことが強調されました。第2部では、事前に提出されたライティング課題4点に対して、講師によるライブでの添削が行われました。第3部では、英語で論文を書く際に非常に役立つCOCA（ネットで検索できる無料の英語コーパス）が紹介され、基本的な使い方を教わりました。所々日本語を交えながらの丁寧な説明は、「レベルの高い内容だった」と参加者に好評でした。



#### □ 第4回 「英語プレゼンテーションセミナー」

【平成30年2月22日（木）・23日（金）】 会場：大阪市立大学 参加：6名  
講師：フィリップ・プール（株式会社サイマル・インターナショナル）

1日目には、効果的なプレゼンの始め方、本論の構成と展開、印象的なまとめ方を、2日目には、質疑応答で活用できる表現を中心に、より高度なスキルの演習が行われました。練習ではユーモアを交えて実践の重要性が強調され、参加者は熱心に聞き入っていました。単元を終えるごとに学んだことを反映してプレゼンを行うという、非常に実践的な内容のセミナーで、最後には、完成度の高いプレゼンが参加者によって披露され、充実した2日間を終えました。



#### □ 第5回 「女性研究者のためのリーダーシップ研修

—強みを活かしたコミュニケーションでリードしていく—

【平成30年3月7日（水）】 会場：大阪市立大学 参加：12名  
講師：エリザベス・ハドローヴァー（ルミナラーニングジャパン）

研修では、女性研究者のリーダーを育成するために、「自信」という言葉をキーワードに、意識面と具体的なスキルの両面から段階的なアプローチが行われました。はじめに、自信を育てていくためには、『自分の強み（力）』を知り、それを信じていくことが必要と、自己認識の重要性が強調されました。当日は4つのカラー（赤・黄・緑・青）を用いて性格をビジュアル的に表すという方法が用いられ、自分のカラーを知るだけでなく、他者のカラーを見抜き、それに合ったコミュニケーションスタイルを実践する練習が行われました。ファシリテーターとして多くの研修を手がける講師が、穏やかな口調の中にも力強く「とにかく練習することが大切」と参加者を励まし、皆がそれに応えて熱心に研修に取り組みました。



#### ■エイミー・ウェント先生の「工学」女子学生のためのエンカレッジ教室

【平成30年2月19日（月）】 会場：大阪市立大学 参加：40名  
講師：エイミー・ウェント（ウイスコンシン大学マディソン校 女性科学・技術リーダーシップ機構（WISELI）ディレクター）

第1部の講演では、インポスターシンドローム（自分の能力や実績を認められない傾向のこと）等「理工系女子が抱える課題」が語られ、女性同士のネットワーク作りや、メンター制度等を活用することの重要性が強調されました。また、第2部のディスカッションでは、「親は子どもと一緒に、工学の楽しさを知る活動に参加することが必要」との話や、「理科の教師は生徒をエンカレッジし、工学は社会に役立つことを伝えていって欲しい」とのアドバイスがあり、女子学生のロールモデルとして活躍するウェント氏の工学に対する熱い想いが伝わってくる1時間半でした。



#### ■英語プレゼンテーションセミナー

【平成30年3月15日（木）・16日（金）】 会場：大阪教育大学 参加：3名  
講師：アイリーン・ケリー（株式会社サイマルインターナショナル）

1日目は、プレゼンの効果的な始め方、本論の構成と展開、印象に残るまとめ方、効果的なビジュアルエイド、また2日目は、質疑応答への対処の仕方に続き、より高度なスキルの演習が行われました。単元を終えるごとに学んだことを反映したプレゼンを行い、またそれをビデオで録画して評価するという実践的なセミナーとなりました。参加者からも、講師の優しくおらかな人柄にも助けられ、楽しく充実した時間となったとの感想が寄せられました。



#### ■女性研究者のキャリア形成・研究力向上セミナー

「観光学分野における女性研究者のエンパワメント：研究、教育、キャリア開発」

【平成30年2月14日（水）】 会場：和歌山大学 参加：42名  
講師：Dr. Lisa Ruhanen（クイーンズランド大学ビジネススクール観光学部 准教授）、Dr. Edith M Szivas（UNWTO Themis Foundation 国際連携担当）、岡田美奈子（和歌山大学 国際観光学研究センター 客員研究員）

Ruhanen 氏、Szivas 氏をお招きし、国際的な観点から、観光学分野における女性研究者のキャリア形成に関して、自身の経験に基づく実践的な問題提起をしていただきました。セミナー後半では岡田氏による日本の状況に関する話題提供があり、これらを踏まえて女性研究者の置かれた現状の評価や今後の課題について、セミナーに参加した女性大学院生や教員も交えた活発な意見交換が行われました。



#### ■ダイバーシティ研修『みんなのいろんな「困った」を考える —多様なライフキャリアを事例に—』

【平成30年2月16日（金）】 会場：和歌山大学 参加：38名  
講師：趙 正美（国際人権 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ発展戦略・グローバル構想局ディレクター）、安西 美樹（LGBT と愉快な仲間たち代表）、衛澤 創（作家、NPO 法人チーム紀伊水道理事長）、空田 光（朝日新聞社和歌山総局記者）

いろんな「困った」を考える、をテーマに様々な事例紹介に基づいたディスカッションがありました。組織内に性的指向・性自認に関する知識を持つ理解者を増やし、家族、学校、職場の中で、当事者が、「自分の居場所がある」と実感できる機会を増やしていくことが重要であるとの指摘がありました。また、参加者の「困りごと」もポストイットに書いていただき、全体で共有しました。実情がよく理解できた、今まで知らなかったことがたくさんあった、とても理解が深まった等、様々な声が寄せられました。





# IV 女性研究者の上位職登用促進

## ■女性研究者研究発表交流会

### □第1回「女性の生き方を考える」

【平成30年3月30日（金）】 会場：積水ハウス株式会社 参加：23名

女性研究者研究発表交流会では、多世帯居住についての研究を行っているウィメンズユニットメンバーの既往研究発表（大阪市立大学生活科学研究科 小伊藤亜希子教授、王飛雪特任助教）、女性の生き方や家族の在り方についてのインタビュー視聴（中央大学文学部 山田昌弘教授）や、ゲストスピーカーとして国内外で活躍されている女性研究者（伊藤 免疫・アレルギー研究所 伊藤眞里所長）を交えての活発なディスカッションを行い、研究者同士の親睦を深めました。



## 【研究施設の共同利用】

平成28年度から文部科学省「共同利用・共同研究拠点」の認定を受けた大阪市立大学人工光合成研究センターと連携し、連携機関の女性研究者に対して積極的な研究施設（研究室、実験室、研究交流スペース、会議室等）の利用の促進を行っています。

## 【企業インターンシップ】

学生や博士研究員のキャリア形成や多様な進路選択を可能にするため、大阪市立大学から大学院生1名を積水ハウス株式会社へインターンシップ派遣しました。先進的な企業の支援制度や研究環境に触れることで、多様な視座と研究意欲を喚起しました。

## 【女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業】

女性研究者の国際的な研究力向上のために、本年度は大阪市立大学が「女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業」を実施し、外国語論文校閲・翻訳費として、4万円を上限に3名を支援しました。今後、大阪教育大学、和歌山大学にも広げていくことを検討しています。

## 【ダイバーシティ研究環境実現 キックオフシンポジウム】

### ■「南近畿からの発信：女性研究者の地平を拓く、未来を創る」

【平成30年2月20日（火）】

会場：グランキューブ大阪 参加：185名

講師：エイミー・ウェント（ウイスコンシン大学マディソン校 女性科学・技術リーダーシップ機構(WISELI)ディレクター)

報告者：西岡英子（大阪市立大学 女性研究者支援室 プログラムディレクター、特任准教授）、小島明子（大阪市立大学生活科学研究科 准教授）、沼田里衣（大阪市立大学 都市研究プラザ テニュアトラック特任准教授）、河崎由美子（積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 課長）

パネリスト：エイミー・ウェント、池上知子（大阪市立大学 副学長）、岡本幾子（大阪教育大学 副学長）、呉海元（和歌山大学 理事・副学長）、小谷美樹（積水ハウス株式会社 経営企画部 ダイバーシティ推進室 部長）

ファシリテーター：折原真子（大阪市立大学 大学運営本部 事務部長）



第1部では、ウェント氏より、「ウイスコンシン大学マディソン校の研究者のジェンダー平等の取り組み」についてご講演いただきました。ウェント氏は、女性研究者の成功のために重要なポイントとして以下の2点を挙げました。1点目は、男性と女性は共に有能であり、女性を含んだ全メンバーが機能し、成功できる組織・環境が重要であるということです。2点目は、無意識のバイアスの存在を個人としてまた組織として認識し、その影響を取り除くことです。無意識のバイアスの影響を避けるためには、組織と個人の両方が意識的に行動することが重要であると述べられました。

第2部では、西岡氏より、今回の補助事業の取り組みの報告や、連携機関に所属する女性研究者による共同研究内容の報告が行われました。女性研究者同士の研究上の結びつきの強化によって今後一層研究が進展し、女性研究者のキャリアアップに繋がる可能性が示されました。

第3部のパネルディスカッションでは、「女性リーダー育成と上位職登用の仕組みづくり」というテーマで意見交換が行われました。管理職の女性が増えない要因として、女性の若手研究者が大学運営に関わる機会が少ない点を挙げ、小谷氏から参考事例として女性対象の管理職候補者研修が紹介されました。また、女性研究者の裾野拡大策として理系女子学生を増やすために、各大学は高校生に向けた数々の取り組みを行っていますが、呉氏とウェント氏からは、幼少期や中学生段階の子どもたちへのアプローチが有効であるとの意見が出ました。

参加された方のアンケートでは「Unconscious biases について身近な周囲の方から理解を広めていきたい」、「単独での取り組みよりも、このように連携して社会に発信、巻き込んでいくことも大切だと感じた」、「未来の社会に大変前向きになれる良いシンポジウムであった」といった声が寄せられました。



## 女性研究者 長く働ける環境づくり

国が女性の活躍を推進するなか、大学や研究機関の女性研究者が長く働ける仕組みづくりに注目が集まっている。女性研究者支援に定評のある米ウイスコンシン大マディソン校で、「女性科学・技術リーダーシップ機構」のディレクターを務めるエイミー・ウェント教授(57)は、「性別に関する『無意識の偏見』について知ることが大きな力になる」と話す。

同機構は、科学技術分野の女性研究者の支援を目的に、米政府機関の補助金を受けて2002年に設立。ウェント教授は07年からディレクターを務めている。大阪市立大主催のシンポジウムに出席するため、2月に来日した。

無意識の偏見とは、意識

# 「無意識の偏見」知って

米ウイスコンシン大  
エイミー・ウェント教授



「男女にかかわらず無意識の偏見に影響を受ける」と話すエイミー・ウェント教授(大阪市で)

「無意識の偏見」とは、意識

「男女にかかわらず無意識の偏見に影響を受ける」と話すエイミー・ウェント教授(大阪市で)

の偏見があり、女性研究者にも採用や昇進、仕事の評価など、キャリア上の様々な場面で不利な影響を及ぼしている」と語る。

同機構は、学部長や採用担当教員を対象に、無意識の偏見などをテーマにした研修を実施。研修に参加した学部は、不参加の学部に比べ、女性を雇う割合が高くなったという。

総務省によると、日本の研究者のうち女性が占める割合(17年)は16%。国の支援事業などで1992年の8%から倍増したが、34割の欧米に比べると、まだ低い水準にある。

ウェント教授は「無意識の偏見をなくすのは難しい。だからこそ、影響を最小限に抑えるよう意識してほしい。評価などの基準を明確にし、先入観につながる言葉を使わないなど、できることはある」と助言している。



## 【女性管理職育成のためのキャリア研修／管理職研修】

女性研究者自らの上位職登用にに向けた意識啓発、また管理職を対象とした女性研究者の積極登用や管理職育成改革を醸成するためのキャリア研修を実施しました。

### ■管理職研修

#### □ 「Beyond the Bias and Barriers 無意識のバイアスー Unconscious Bias ーと女性活躍促進」

【平成 30 年 2 月 21 日 (水)】 会場：大阪教育大学 参加：40 名

講師：大坪 久子 (日本大学 薬学部薬学研究所 上席研究員)

管理職を対象とした女性研究者の積極登用、管理職育成を目的とした研修を開催しました。研修では、米国科学財団(NSF)における女性研究者支援事業の中での無意識のバイアスの発見の紹介に始まり、人事選考時等の選ぶ側と選ばれる側の具体的なバイアス例が示されました。そして、バイアスの軽減に組織的に対応するために各大学の状況に即した採用のガイドラインを作成しようと呼びかけられました。誰もが持っているバイアスを意識化し、対策を施すことの重要性について学びを得る良い機会となりました。



#### □ 女性管理者育成のためのキャリア研修会

【平成 29 年 12 月 9 日 (土)】 会場：和歌山大学 参加：13 名

講師：朴木 佳緒留 (元神戸大学学長補佐、京都教育大学監事)、佐々木 妙月 (情報の輪サービス(株)、NPO 法人 ZUTTO)

話題提供者として、お二方にこれまでのキャリアと取り組みについてお話いただきました。朴木氏からは、2010年に神戸大学初の女性研究科長となり、その後の学長補佐を経験されたキャリアからの、女性管理職への提言をいただきました。佐々木氏からは、女性のための再就職支援活動を通じての、女性のキャリアアップへの提言がありました。最後は質疑応答・意見交換も行い、女性管理職育成のために必要な考え方について共有できました。



# V 各連携機関のその他の取り組み

## 【大阪市立大学】

### ■女性研究者表彰制度「岡村賞」

平成26年度に創設した女性研究者表彰制度を継続しており、本年度は、優れた研究活動や教育活動および男女共同参画推進に貢献した女性研究者4名を表彰しました。

### 第4回 大阪市立大学 女性研究者特別賞・奨励賞「岡村賞」受賞者

#### ■特別賞

吉田 朋子（複合先端研究機構 教授、人工光合成研究センター 副所長）

#### ■博士研究員奨励賞

Isil TULUM（理学研究科 生物地球系専攻、複合先端研究機構 博士研究員）

#### ■大学院生奨励賞

佐野めぐみ（理学研究科 数学系専攻 後期博士課程3年、日本学術振興会特別研究員(DC2)）

松本 優（理学研究科 生物地球系専攻 後期博士課程1年）



【表彰式・記念講演会での記念撮影の様子】

### ■理系女子学生による進路相談会

【平成29年8月5日（土）・6日（日）】 参加：208名（2日間）

対象を女子中学・高校生等とし、本学のオープンキャンパスと同時開催で企画・実施をしました。8月6日は大阪市との共催により、理系研究科修了生3名を講師に招き、ワーク・ライフ・バランスセミナーとして「先輩に学ぶ！リケジョの進路と卒業後のキャリアの拓き方」を開催しました。



### ■第12回女子中高生のための関西科学塾

【平成29年10月15日（日）】 参加：100名

この企画は、関西主要6大学（大阪大学、奈良女子大学、京都大学、大阪府立大学、神戸大学、大阪市立大学）が中心となり、女子中学・高校生を対象に行います。本学では2回目の開催となります。

今回は女子中学生を対象に、5つの講座に分かれて実験実習を行いました。家族で参加された方が多く、文系の女子中学生も参加しました。女子中学生それぞれの将来における選択肢が広がり、また保護者の方も、子どもの将来について多岐な分野で考える良い機会となりました。

## 【大阪教育大学】

### ■男女共同参画関連特別講義

大阪教育大学教養基礎科目の中で、外部講師を招いて、男女共同参画関連の特別講義を行いました。

#### □「ジェンダーとセクシュアリティ」

【平成29年12月18日（月）】 参加：65名

講師：久保勝（NPO法人ASTA共同代表理事）

アライ（注：LGBTの非当事者で、セクシャルマイノリティを理解し支援する人々を指す言葉）としての支援団体の活動内容を紹介するとともに、活動の原点となっている“人はどこかで必ずマイノリティ”という思いについて語られ、参加者からは多くの賛同の声が集まりました。



#### □「キャリアデザイン」「キャリア教育」

【平成30年1月16日（火）、1月19日（金）】 参加計：254名

講師：甲田恭子（同志社女子大学 嘱託講師）

女性の雇用に関する法的環境について、男女雇用機会均等法の内容とその変遷を中心に、労働基準法、育児・介護休業法、女性活躍推進法、パート労働法も含め、詳細な説明がなされ、学生が自分の身に引きつけて法律の理解を深めるのに大いに役立つものとなりました。



### ■男女共同参画推進助成

男女共同参画に関連した教育活動・研究活動及び実践活動に対する助成事業を学内公募し、大学教職員の子育て支援策としての短期託児プログラム、教員養成大学におけるセクシャル・ダイバーシティに関する自主活動支援等5件に対して助成を行いました。

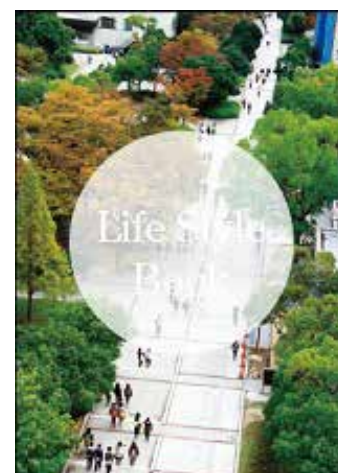
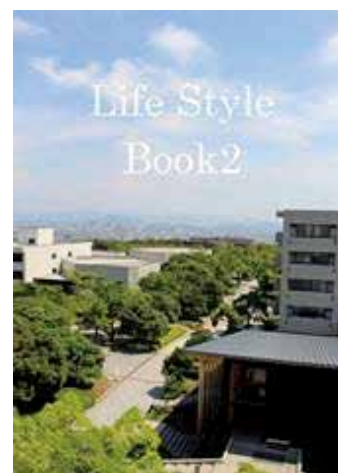




## 【和歌山大学】

### ■ダイバーシティ研究環境整備のための取り組みの周知

男女共同参画にかかる内容（育児・介護等の制度）を解説したパンフレット『Life Style Book』を配付（7月27日）しました。また、同パンフレットを平成30年3月に更新しホームページに掲載しました。

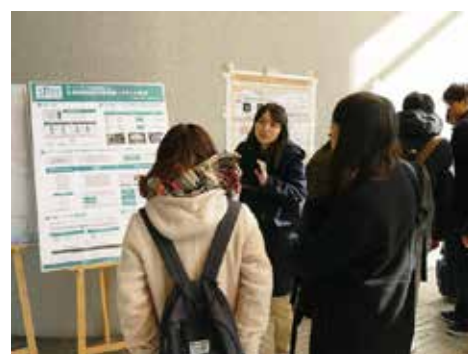


### ■女性研究者研究支援経費

産休・育休・介護休暇明けの研究者への研究費助成のほか、女性教員が論文執筆した際の投稿料・掲載料や、国際学会で発表した際の交通費・宿泊費などの補助（11月17日）を実施しました。

### ■理系女子学生の博士後期課程進学に関する相談会、セミナーの開催

理系女子大学院生による進路相談会（7月16日オープンキャンパスと同時開催）、2017年後期ランチタイムセミナー・交流会【システム工学部1～2年生向け、理系女子】（12月5日、12月7日）を実施しました。



## 【積水ハウス株式会社】

### ■「仕事と育児の両立いきいきフォーラム」

【平成29年6月9日、12日、16日、19日、22日、7月6日、10日】 全国7会場、1122名参加

「成長するための協体制作り」をテーマに積水ハウスとグループ企業の女性育児者624名とその上司451名、そのパートナー47名が参加しました。仕事と育児を両立しながらキャリアアップするためのビジョンを作り上げ、育児中社員の戦力強化を目指しました。

以前は女性のみで「両立キャリアアップ勉強会」として実施していましたが、女性のキャリアアップには、本人と上司との関係性が重要との認識のもと、2015年より上司と本人の双方の参加に展開、育児中もキャリアアップを目指し自律的に働くために、本人と上司がグループディスカッションを行うなど上司に対しての意識改革を強化しています。またグループ会社の参加によりシナジー効果でグループ全体の意識改革も図りました。



### ■女性管理職候補者研修「積水ハウス ウィメンズカレッジ」

【平成29年度】 3期生、4期生 計38名参加

管理職候補の女性を全国から選抜し、2014年より毎年実施しています。2年間のカリキュラムで着実に育成し、計画的かつ適正に実力ある女性の管理職登用を実現します。

1年目は、経営視点を養うスキル学習によりマネジメントの本質を学び、2年目には、職場の課題を解決する経験学習により現場対応力を強化。目標である「管理職にふさわしい経営視点・実力の向上」と「管理職資格昇格への意欲・自覚の醸成」の達成を目指します。

2020年までに積水ハウスグループは女性管理職を200名（5%）輩出し、さらに基盤を固めた上で、女性管理職比率10%を目指して取り組んでいきます。



# VI 主な取り組み一覧

月	日	取 り 組 み
7月		平成29年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に採択
10月	13日	国際リーダー育成のための英語スキルアップ・プログラム 第1回 「女性のキャリア形成：日米舞台での1ケース-英語で未来を切り拓く-」
	31日	第1回 連携機関連絡会議
11月	9日	国際リーダー育成のための英語スキルアップ・プログラム 第2回 講演「違いのわかる英語一部始終」、ワークショップ「英語発信力①アサーティブ・トレーニング」 「英語発信力②脱『起承転結』」
12月	9日	管理職研修「女性管理職育成のためのキャリア研修会」
	14日	国際リーダー育成のための英語スキルアップ・プログラム 第3回 「英語論文ライティング・ワークショップ」
	20日	第2回 連携機関連絡会議
2月	6日	ダイバーシティ保育サポーター養成セミナー 第1回 講演会「性的違和を乗り越えて～側にいる性的マイノリティ～」
	14日	女性研究者のキャリア形成・研究力向上セミナー 「観光分野における女性研究者のエンパワメント：研究、教育、キャリア開発」
	16日	ダイバーシティ研修「みんなのいろんな『困った』を考える-多様なライフキャリアを事例に-」
	19日	エイミー・ウェント先生の「工学」女子学生のためのエンカレッジ教室
	20日	協定調印式、第1回 連携機関長会議
		ダイバーシティ研究環境実現キックオフシンポジウム 「南近畿からの発信：女性研究者の地平を拓く、未来を創る」
	21日	管理職研修 「Beyond the Bias and Barriers 無意識のバイアス- Unconscious Bias -と女性活躍促進」
	20・21日	ダイバーシティ保育サポーター養成セミナー 第2回 保育サポート養成研修
	22・23日	国際リーダー育成のための英語スキルアップ・プログラム 第4回 「英語プレゼンテーションセミナー」
	26・27日	イノベーション・ストリーム KANSAI 2018
28日	ダイバーシティ保育サポーター養成セミナー 第3回 講演会「子供の貧困～子供のSOSにどう応えるか？～」	
3月	1日	第3回 連携機関連絡会議
	7日	国際リーダー育成のための英語スキルアップ・プログラム 第5回 「女性研究者のためのリーダーシップ研修-強みを活かしたコミュニケーションでリードしていく-」
	14日	産学官連携ウィメンズイノベーションフェア 「イノベーション 創造の新しい形～女性研究者が切り拓く未来～」
	15・16日	英語プレゼンテーションセミナー
	30日	女性研究者研究発表交流会 第1回 「女性の生き方を考える」

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」  
事業報告書 2017(平成29年度)  
南近畿から広がる新しい未来への扉

発行日 平成30年7月発行  
発行 大阪市立大学 女性研究者支援室  
連絡先 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138  
Tel:06-6605-3661  
E-mail: ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp